1992年6月5日第3種郵便物承認　ＫＴＫ増刊通巻第5089号　　2021年1月28日発行（毎月1回25日発行）

KTK

NO.１０８

後援会費郵便振替口座
０１０７０－７－３２１４５
あらぐさ後援会

# あらぐさ通信

編　　集　あらぐさ後援会
編集協力　社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813　京都府長岡京市井ノ内広海道42－3
TEL 075-953-9212　FAX 075-953-9215

## ビオラ販売

昨年十一月「花と緑のカーニバル」に出店（紹介記事5頁）

## 新年明けましておめでとうございます

あらぐさ福祉会　統括事業長　　永崎靖彦

昨年のコロナ禍のなか、行政はもとより、企業関係、地域の方々より、感染対策物資の提供や、お声をたくさんかけていただきました。また、クッキーやさをり等の自主製品の販売にもご協力いただきました。感染対策に緊張感を高める私たちにとって、どれもが心に響き、大いに励まされました。

困ったとき声をかけてくれる、支えてくれる、そういう日常が「安心して暮らせる地域」ではないかと考えました。

新年度も「地域で暮らし続けたい」の願いを深め、その実現に向けて職員一同努力していく所存です。

# いくつもの節目を越えて

安武真理

梢は31歳・・ということは、あらぐさでもう13年目なのですね。長いこと末っ子的な感じでしたが、いまでは後輩もできて、Ａグループで楽しく活動し、平日夜はいろどりでゆっくり過ごしています。現在に至るまでの、いくつかの節目を振り返ってみました。

## 母子通園から単独通園へ

京都市西京区生まれです。重度の障害がありますが、生まれたときはまったくわかりませんでした。点頭てんかん発作らしい症状が出てきたことを4か月検診のときに訴えてやっと医療につながりました。

家族以外で最初にお世話になったのは、私が通っていた自動車教習所の保育スタッフさんでした。育休の間に免許を取って職場（中学校）復帰・保育園送迎に備えるという完璧な計画でしたが、途中で障害が判明し、２か月の入院となってしまいました。退院後、教習を再開したときも、保育室で温かく迎えていただけて助かりました。結局保育園には入れず、私の職場復帰もかなわなかったのですが、この時点で免許を取っておいたのは正解でした。

調理

１歳から「ひばり学園」に母子通園を始め、親子ともたくさんのお友達ができました。ただ、週3回の通園で、受けられる保育の時間も短く、往復の移動時間のほうが長いくらいでした。途中からもう1か所「あいあい教室」にも週１で通い、音楽が大好きになりました。

しかし、なんとか「近くで毎日の単独通園」をと考え、年中の４月からやっと、洛西愛育園に通うことになりました。その直前の半年くらい（3歳の夏に妹が生まれ、二人連れての母子通園だった‥）が、今思うと一番大変でした。

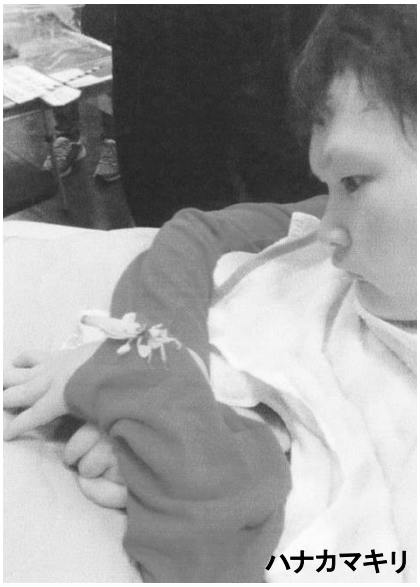
## 就学・乙訓へ

そのころの京都市では、肢体不自由の子が通える養護学校が一つしかなく、西京区からは通学バスで片道１時間以上かかりました。高等部まで12年間そんな生活はきつい。また、向日が丘養護学校（現在は支援学校）に通わせたい。ということで就学直前の引っ越しを決行しました。洛西愛育園には卒園まで通いたいし、妹の転園先も決めなくては、ということでてんやわんやでしたが、無事乙訓の住民になれました。

実は、向日が丘の小学部秋祭りや、乙訓障害者夏祭りには、母子通園の先輩に教えてもらって何度も来ていました。そこであたたかい楽しい雰囲気に触れて「ここに来たいな」と思ったのです。夏祭りで妹が迷子になり、焼きそば屋さんで保護してもらったこともありましたが、たぶんその方は後の担任、真殿先生でした。運命の出会いか？

さらに実は、「あらぐさ」も就学前からチェックし

ていたのでした。母子通園の頃、近くであった全障研の大会を教えてもらってのぞいたとき、レポートの数と質がすごいな、と憧れました。


ハナカマキリ

向日が丘の12年はあっという間でしたが、学校と同じくらい障害児学童保育「わっしょいクラブ」で親子とも育てられました。そして子供たちも学生指導員を育ててきました。重い障害を持つ人は、自分に関わってくれる人を信頼しないと生きていけません。先生だろうと学生だろうと関係なく、命がけで信頼することが、若者の心に響いたのだと思います。梢の場合は、特に「初めての人とでも喜んでご飯を食べる」という能力で、学生たちに自信をつけてきたと思います。

## チームで進路開拓

高等部に入って学校と地域を見渡すと、どう考えても「生活介護」の進路先が足りない、だれがどこに入るかという以前に全体の枠を増やさないとどこにも行けない人が出る。ということで同学年の「生活介護」該当の保護者が障害種別を越えて集まり、覚悟を決めてチームでの活動を始めました。議会に要望を出して傍聴に行ったり、自立支援協議会に参加したり。親が多忙になる高２、高３に向日が丘の寄宿舎に入れたことは本当にありがたく、梢もクラスの友だちとはまた違った仲間たちと、青春を楽しんでいました。

そして「若竹苑の生活介護枠」が実現しました。最終的に肢体不自由の二人は「あらぐさ」が受け入れてくれましたが、直前まで若竹のスタッフも、食事介助の学習などで学校にきてくださっていました。

このチームでの活動中、保護者のひとりが亡くなりました。お元気だったら「あらぐさ」に進路希望を絞ったかもしれないと心が痛みました。お子さんは地域を離れることになり、乙訓には入所施設が足りないという現実も改めて突きつけられたのでした。

## いろどり誕生

梢があらぐさに入って間もなく、ケアホームの建設運動が始まりました。後援会や地域のみなさんに支えられて「いろどり」が誕生しました。これもまた、自分の子が入れるかどうかに関わらず、とにかくみんなで場を作るのだという意志が求められる取り組みでした。それでもやはり「希望したのに入れなかった人」はいて、その痛みや要望を私たちはどう引き継ぐのか、課題が残されています。

## コロナ禍のなかで

次に来る節目は、親が亡くなった時。お金の管理だけでなく、本人の人生をまるごと支えてくれるような成年後見は可能かというのが最大の関心事‥で

買物

したが、不意打ちのようにコロナ禍がやってきました。要介護者が感染した場合の支援対策を熱望します。現状では家で引き受けて家庭内で感染が広がることしか予想できません。とりあえず地味に感染予防！のため、今回の記事は密を避け、インタビューではなくリモートで？書きました。

# 創 17th（Re）～えがおの手しごと展～

昨年度の「創１７ｔｈ」はコロナの影響で残念ながら中止になりました。
今年は、昨年お披露目できなかった製品たちに今年の新作を加え「創１７ｔｈ（Re）」として開催することが決まりました。

テーマは昨年に引き続き「bag＆pouch」です。
２年分の製品たちが会場でお待ちしております。

**日程：2021 年2月6日(土)12:00～17:00**

**7日(日) 9:00～17:00**

**場所：長岡京市立産業文化会館　１階ホール**

今年の作品展はコロナの予防対策をしっかり行った上での開催となっております。
定期的な換気・消毒はもちろん来場される方が密にならないように工夫を重ね、少しでも多くの方が安心してご来場できるよう、配慮しています。
また、ご来場者にも検温やマスクの着用などのご協力をお願いしております。何卒ご了承のほどよろしくお願いいたします。

## コロナに負けるな！みんなおいでよ～あらぐさ「リモートひろば」

「福引き応募はがき」と「購入補助券」（本号付録）をお送りしますので、ぜひご参加ください。
今回は一昨年以降で後援会員入会、更新、支援募金をいただいた方になりますので、ご了承ください。

## 製品紹介

Ｃグループ

# レインボータオル

レインボータオルは、レンジ染め作業で、今年度から作り始めた製品です。

このレインボータオルは、レンジカラー液を使ってタオルを染色し、電子レンジで加熱することで色を定着させます。

作業には、染め液を作る工程、輪ゴムで柄付けをする工程、出来上がりの製品を包装する工程など様々なものがあり、利用者ひとりひとりの得意分野を活かしながら、楽しく作業をされています。

利用者が協力しながら作り上げた、色とりどりのレインボータオルを、ぜひご覧下さい。

販売価格　￥４５０（１枚）

## 『花と緑のカーニバル～2020 花子の秋の文化祭～』に出店

昨年 11 月 12 日に『花と緑のカーニバル～2020 花子の秋の文化祭～』が開催され、あらぐさから、ビオラの苗の販売で出店しました。例年参加させていただいていた「花子百貨店」は新型コロナウイルスの影響で中止が決定していましたが、販売主催者の元にリピーターのお客様から「あらぐさの苗はどこに行けば買えますか？」と嬉しい問い合わせがあり、急遽、小規模での開催が決定しました。

当日の販売では、リピーターのお客様はもちろん、新規のお客様にもあらぐさのビオラをたくさん見ていただくことができました。「あらぐささんの花は毎年長く楽しめる」と嬉しい声もいただきました。毎年のビオラの苗の販売がお客様の印象に残り、これまで築き上げてきた地域との交流が今回の販売開催に繋がったのだと思えた良い機会でした。

とっておきの一枚

# 染めエコバッグ作り

長岡京市役所より注文を頂いて、エコバッグ作りをしました。デイセンター１、デイセンター２で、３００枚納品することになりました。

デイセンター２では、利用者さんとどんなエコバッグにするかデザインや染料を考え、藍染めをすることになりました。そして、染めたバッグにペンを使って絵を描きこみました。

1 まずは染まりやすくするためにエコバッグの糊落としをしました。大きな鍋の中にエコバッグを入れて、棒を使ってぐつぐつとお湯の中で混ぜ、糊を落としています。

2 次にエコバッグを藍染め液の中に浸します。浸し方は利用者さんにお任せしているので、それぞれ色の付き具合が違います。

3 最後に、染め上がったエコバッグに思い思いの絵を描きこんでいきました。完成したエコバッグを袋詰めして、ラベルを入れる工程ももちろん手作業で行いました。

利用者さんはそれぞれの工程に参加され、白いエコバッグが染め上がって完成していく様子を嬉しそうに見ておられました。エコバッグが地域のみなさんの手に届いて、街中で見かけるようになると嬉しいですね。

(鞍貫)

障害福祉センターあらぐさ　職員

## 松岡 利代子　さん

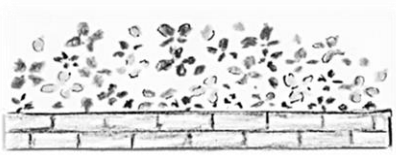
（まつおか　りよこ）

2020年４月よりデイセンター２でお世話になっております、松岡利代子です。私は宇治市出身で、京都で学生時代を過ごしました。大学院では、「知的障害のある女性の恋愛」というテーマで、障害のある方の性について研究をしていました。

私は小学生の頃に、知的障害のある女の子と一緒に遊んだ経験から、ぼんやりと障害者福祉に関する仕事がしたいなあと思うようになりました。学生時代は、障害のある子どもたちの余暇支援を行うボランティアや、放課後等デイサービスでのアルバイトなど、子どもと関わる時間ばかりでした。日々成長をしていく子どもたちとの関わりは刺激的で楽しかったです。しかし大人の方との関わりならば、その方の人生により長く寄り添うことができると考え、大人の方と関わる施設に就職をしたいと考えるようになりました。

そんな中、就職活動で出会ったのがあらぐさ福祉会でした。施設の見学に行くと、明るい館内の環境がとても印象的で、ここで働きたいと直感的に思いました。そして就職して数ヶ月が経ちましたが、最初に受けた印象通り、風通しの良い職場で利用者の方も職員もあたたかい方ばかりです。私が困っていると多くの先輩職員が声をかけてきてくださるので、大きな悩みを抱えることなく日々の支援に携わることができています。利用者の方も素敵な方ばかりです。日中という限られた時間の中だけですが、様々な方の生活に寄り添うことで、私自身の価値観や視野も大きく広がりました。

まだまだ至らない点が多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、日々の支援で学びを深めながら成長していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



## あらぐさ後援会　加入・募金　ありがとうございました

（２０２０年8月１６日～１１月３０日　　敬称略　順不同）

青嶋芳文　赤井綾子　秋山喜美江　芦田昌夫　東俊明　網谷億子　荒木まち子　池田廣子　井古テル子　石井憲生　石田秀子　石橋雅子　石村和子　伊藤憲一　今井三郎　今井正　今井千代子　一般社団法人江後経営　大谷和也　大谷ユミ　大槻さつき　大槻典子　大月裕子　岡本敦子　小川百合子　奥山禎二郎　乙訓教職員組合　乙訓手をつなぐ親の会　小野田照代　甲斐幸子　医療法人社団片岡診療所　勝山廣美　河合隆平　川瀬明子　岸陽子　上坂愛子　小北英子　小坂文夫　古瀬祥江　小林圭子　小林久雄　小林美恵子　佐々木和隆　佐々木康二　佐々木久子　佐藤卓利　猿橋靖　椎谷和子　四方政則　重松悦子　嶋本芳輝　嶋本美恵　清水敏子　新庄佑三　鈴木ひかり　住田珠江　住田初恵　宋彦一　髙橋久美子　田口芽生　田代千代子　多田美智恵　田中礼子　千葉善清　長誠一郎　長理恵子　築出邦子　坪野津由子　東宮健史　中川慶子　中川政之　中川千津子　中川綾子　中谷ちよみ　中村時雄　中村雄策　夏原典子　野畑和枝　株式会社ハウジングステーション代表取締役山下吉昭　馬場かね子　浜野利夫　林広子　林基樹　原田文孝　ぱんだ企画　平田喜祐　平塚洋子　廣岡冨美子　福井共子　ベーカリーセルフィーユ　細川幸子　細谷みつ子　堀江幸男　本田章子　前川明雄　前田幸子　前田真之介　前田知臣　前田良子　造酒豊　南やすこ　三宅善昭　宮﨑俊一　宮田啓子　宮本史朗　村井悦予　村野英介　森垣美知子　森上郷　森下美代子　森下洋子　薮見富喜男　山中啓三　山本眞弓　山本義則　山本恭子　渡邊博　　匿名６名

## 後援会費納入 と あらぐさ支援募金 のおねがい

・同封の振込用紙をご利用ください。
・入金と行き違いになりました際はご容赦ください。
・後援会費、支援募金には「KTK あらぐさ通信」紙代がふくまれています。

## きょうされん第 44 次国会請願署名・募金へのご協力のお願い

「あたりまえに働き　えらべるくらしを　～障害者権利条約を地域のすみずみに～」というスローガンはあらぐさの理念とも重なる部分があります。全ての人の権利と命が大切にされる社会を目指すため、ご協力お願いします。

1992 年６月５日　第３種郵便物承認（毎月１回２５日発行）2021 年1月28 日発行
ＫＴＫ増刊通巻第 5089 号　発行所　京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町 536-1 元待賢小学校１階
京都難病連内　発行人　髙谷修　頒価 50 円（購読料は会費に含まれています）

KTK
あらぐさ通信